

新入会員オリエンテーション

この度は日本山岳会入会おめでとうございます。会長の古野淳と申します。これから末永くおつきあいどうぞよろしく申し上げます。

コロナ禍の新しい生活様式、思うように山行ができない苛立ちや、感染の恐怖の中、どのように行動してよいのか、日本中、世界中の登山者が悩んでいることと思います。

そんな中、日本山岳会の新しい仲間として加わっていただいた皆様とこれから一緒にどんな登山を行っていただけるのか、コロナ明けにはきっと希望でいっぱいの世界が待っていることと思います。

目標を決めて、額に汗して頂上を目指す登山を行っている登山者は多くいらっしゃると思います。健康に良いことはもちろん、夏でも雪渓の残る日本の高山帯の自然は、貴重な高山植物、野生動物たちがコンパクトなエリアに集中し、私たちを楽しませてくれる自然環境は世界でも稀、というより日本にしかない環境だと思います。

わたしは福岡県に生まれ、子供の頃から登山に親しむ環境にありましたが、雪山にあこがれて上京しました。初めて登った雪山の美しさにノックアウトされ、雪解けのお花畑の美しさ、クマやカモシカとの遭遇など非日常の世界はほかのどんなスポーツや趣味より惹かれるものがありました。ヒマラヤ、アルプス等海外の山にもずいぶん通いましたが、日本の深山幽谷の静けさ、水の音、その美しさに勝るものはないと心から思います。

登山は奥が深く、登山文化という意味では人生の最後まで知的好奇心を働かせて楽しめる一生の趣味です。日本山岳会は1905年(明治38)創立ですが、そのはるか前から日本の山岳文化を書き残してきた先人たちの文章がたくさん残っています。日本山岳会の図書室は日本最大の山岳図書が保存されていますが、ぜひそれを活用して質の高い登山文化に親しんで楽しんでいただければと思います。活字を残して後世に文化を伝えることが一番の伝統だと思っています。

同好会などの活動で会に馴染んできたころ、委員会の活動もものぞいてみてください。すべてボランティア活動なのでアマチュアの集まりですが、各委員会は日本の登山界をリードするレベルで情熱的に活動しているところがいくつかあります。自然保護、医療、科学、国際交流等、先輩方の実績の積み重ねの上に成熟した状態で活動しています。

山岳会をこれからうまく利用して、山を通して一生楽しめる場となることを期待しております。

日本山岳会 会長 古野淳

2020-09-05